

帯広大谷短期大学 各学科・専攻の学習成果について

本学は真宗大谷派親鸞聖人の精神を「建学の精神」としている。いのちの大切さをその旨としているが、とりわけ自らが生きていることの喜びを感じること、さらには自分のいのちと同様に他者のいのちの重要性を学生の学びの要に据えている。

したがって、本学を卒業する為に必須であるのは、他者との共生をいかになし得るのにその眼目が置かれることとなる。

地域社会を自らが中心となって活性化することは時代を担う若者の役割であるが、とりわけ他者との関わりのなかでそれを達成することに本学で学ぶ大きな意義があり、またこの3年間、看護学科は3年間の大きな学びの成果となる。

この「建学の精神」と本学の教育意義に則って以下のように各学科・専攻において学習成果を定める。

●地域共生学科 キャリアデザインコース 学習成果

地域共生学科キャリアデザインコースでは、「建学の精神」および地域共生学科キャリアデザインコースの「人材の養成及びその他の教育研究上の目的」に即し、以下の汎用的学習成果を設定する。

【汎用的学習成果】

1. 地域の人々から信頼され愛されるような人間性がある。
2. 地域を知り、地域に貢献する意欲がある。
3. 地域を生かすことについての豊富な知識がある。
4. 多種多様の力を総合し、使うことのできる視野の広さがある。
5. 地域に貢献しうる技術と表現力がある。

また、地域から必要とされる社会教育主事・図書館司書の育成を目指すところから以下の専門的学習成果を設定する。

【専門的学習成果】

1. それぞれの分野における専門的な知識と技術がある。
2. 地域を知り、地域に貢献する意欲があり、地域を生かす方策を探る技術と知識がある。

●地域共生学科 食と栄養コース 学習成果

食と栄養コースでは建学の精神のもと、科学的に真理を探究し、いのちを大切にする心をもち、職業的にも自立した人間として自ら成長していく向上心を持つ栄養士の養成を目的に、以下の学習成果を設定する。

【汎用的学習成果】

1. 豊かな人間性と社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける。
2. 他者と協働することができる。

【専門的学習成果】

1. 栄養に携わる者に必要な専門知識・技術を習得することができる。
2. 健康や生命を預かるうえでの栄養管理、衛生管理を行う者として責任や自覚を身につけ、主体的に考え方行動することができる。
3. 栄養・健康などに関する知識や技術を生涯学び続けることができる。
4. 食を通して地域貢献ができる。

●社会福祉科 子ども福祉専攻 学習成果

社会福祉科子ども福祉専攻では、「建学の精神」および社会福祉科子ども福祉専攻の「人材の養成及びその他の教育研究上の目的」に即し、以下の学習成果を設定する。

【汎用的学習成果】

1. 一人ひとりの違いを大切に受け止めながら他者と「共に生きる」生き方について理解する。
2. 総合的な思考力、表現力を身につけ、それらを活用しながら成長を目指す意識を持つ。

【専門的学習成果】

1. 子ども家庭福祉、保育、幼児教育に関する基本的な理論や知識を身につける。
2. 子どもの心身の健康な発達に関する理論や知識をもとに、子どもの発達に合わせた適切な接し方や援助方法を選ぶことができる。
3. 保育内容とその指導法についての基礎的な知識を習得し、遊びなどの具体的な活動を計画し、実施することができる。教材を研究し、子どもの姿に合わせて活動を工夫しようとする姿勢をもつ。

●社会福祉科 介護福祉専攻 学習成果

社会福祉科介護福祉専攻では、「建学の精神」および「人材の養成及びその他の教育研究上の目的」、厚生労働省より提示されている「求められる介護福祉士像」「資格取得時の到達目標」に即し、地域社会に貢献する社会人となることを学習成果とし、以下のとおり汎用的学習成果と専門的学習成果を設定する。

【汎用的学習成果】

1. 多様な価値観や文化を持つ他者に誠実な関心を寄せ、相手の立場に立って理解した上で思考し、主体性・協調性を持って行動することができる。
2. 地域・社会の事象に幅広く関心を持ち、多角的な視点で思考し、主体性・協調性を持って行動することができる。

【専門的学習成果】

1. 倫理的自覚と自己覚知：高い倫理性と社会的使命を自覚するとともに、自己を客観視した上で、利用者本位の尊厳と自立を支える介護を実践できる。
2. 介護福祉に関する研究的態度：感性を磨き、教養を身につけるとともに、介護福祉に関連す

る現場における中核的な役割を担う介護福祉専門職としての誇りと責任を持ち、研究的視点で介護の専門性や自己の介護観を探究し続ける態度が身につく。

3. 信頼関係を形成するコミュニケーションの実践力 : 受容・共感的態度を基盤に、利用者の状況に応じたコミュニケーションを図り、相互理解を深め、信頼関係を形成する能力が身につく。
4. 利用者理解と根拠に基づく介護過程の展開 : さまざまな背景を持つ利用者の全体像を捉え、個別の介護ニーズを把握するとともに、介護福祉に関連する基本的知識と生活支援技術を身につけた上で、介護過程を展開できる。
5. 地域における介護福祉専門職の役割認識 : 幅広く福祉・保健・医療に対する理解や見識を持ち、地域の福祉的課題解決や地域共生社会における介護福祉専門職の役割を理解することができる。
6. 多職種協働によるチームケアの必要性の理解 : 介護福祉に関連する他職種の役割を理解・尊重しチームとして協働する必要性を理解できる。
7. 的確な記録・記述 : 介護実践における情報の共有化の意義を理解し、情報を適切にまとめ、報告することができる。

●看護学科 学習成果

看護学科は、看護専門職として人々の命を守り、倫理的責務と主体的に学び続ける能力の育成を使命として、卒業後に身につけておくことが期待される学習成果の方針をディプロマポリシーに示している。学習成果は、ディプロマポリシーにつながる各科目のカリキュラム上の位置付けと概要に沿って、「目標としての学習成果」を一般目標 GIO と行動目標 SB0s に分けてシラバスに明記している。

1. 学習成果を示す科目目標

1) 一般目標 GIO (以下 GIO) の設定

GIO はディプロマポリシーの下に作成し、卒業までに達成すべき目標として学位プログラムレベルの学習成果を示している。

2) 行動目標 SB0s (以下 SB0s) の設定

SB0s は、各科目終了後に身につけておくことが期待される科目レベルの学習成果である。カリキュラムポリシーの下に作成し、授業計画の回数ごとにシラバスに項目が分かるように記載している。各科目責任者は、数値で測定できる SB0s を客観テストで量的に示す。学生個々学習成果が全体のどの位置にあるかや、優れている項目、課題となる項目を理解できるよう科目ごとに提示することをシラバスに明記している。ペーパーテストでは測定できない項目は、レポートの提出を求め、思考の視点や切り口に関して自覚を促すよう質的評価をフィードバック（パフォーマンス評価）する。

3) プログラムレベルの学習成果 GIO と科目レベルの学習成果 SB0s がどのような整合性を持つのかを示すツールとして、カリキュラムマップを用いている。

2. 評価対象としての学習成果の評価

学習成果の評価は、直接評価、間接評価、量的評価、質的評価の4つのタイプを組み合わせている。

1) GIOの評価

- (1) 各科目の終了時に、実施する授業評価アンケートで科目に対する学生の取り組みの自己評価と、教員の授業評価を量的・質的・経年的に分析する。
- (2) 進路が決定した学生へのアンケート調査で学生の自己評価を収集し経年的に分析する。
- (3) 就職先の施設組織へのアンケート調査で期待される人材を輩出しているか、および自己評価との乖離の程度はどうかの卒後キャリア評価を行い、経年的に分析する。

2) SB0sの評価

各科目の終了時に、実施するペーパーテストとレポートで、量的・質的に評価し、学生全体の評価と個別評価をして学生に通知するとともに経年的に分析する。

3) 直接評価と間接評価（下表）

シミュレーション教育による学内演習や学外の臨地実習は、客観テスト等の量的評価はなじまないSB0sが多い。したがって、学生自身が実習記録によって日々の行動や学習内容を自己評価し、カンファレンスやグループ学習の機会を通して、教員が価値観、興味、関心の程度等の間接評価をサポートする体制を組み合わせている。

直接評価は、学内演習の模擬患者によるコメントや臨地実習指導者のコメントで、特にできたりを認めるプラスの評価を具体的に表現して学生と共有する。

各科目の直接評価と間接評価

